事務事業評価シート

（平成 24 年度実施事業）

事務事業名	近郊自然歩道整備事業			事業コード	242
所属コード	051000	課等名	環境企画課	係名	環境保全係
課長名	櫻　正伸	担当者名	木庭　大介	内線番号	8418
評価分類	■ 一般　□ 公の施設　□ 大規模公共事業　□ 補助金　□ 内部管理				

1　事務事業の基本情報

(1) 概要

総合計画体系	施策の柱	環境との共生	コード	6
	施策	かけがえのない自然との共生	コード	2
	基本事業	自然資源の活用	コード	1
予算費目名	一般会計　4 款 1 項 4 目 自然環境等保全事業（002-02） 一般会計 4 款 1 項 4 目 環境保全地区等整備事業（002-01）			
特記事項				
事業期間	□単年度　■単年度繰返　□期間限定複数年度		開始年度	昭和 46 年度
根拠法令等				

(2) 事務事業の概要

市民の自然保護意識を高めるため，身近に自然に触れ合う場として，市が設定した散策路（近郊自然歩道）の適切な維持管理を図る。

(3) この事務事業を開始したきっかけ（いつ頃どんな経緯で開始されたのか）

自然環境の保全，市民の自然に対する愛護意識の啓発及び自然豊かな都市形成を目指し，昭和 52 年からコースを開設整備した。

(4) 事務事業を取り巻く現在の状況はどうか。(3)からどう変化したか。

「団塊の世代」の退職，少子高齢化社会等に伴う余暇需要の増大や，市民の自然環境への関心が高まっている。今後は玉山地域における新規コース設定の可能性について検討する必要がある。

2　事務事業の実施状況（Do）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

(1) 対象（誰が，何が対象か）

市民

(2) 対象指標（対象の大きさを示す指標）

指標項目	単位	22 年度 実績	23 年度 実績	24 年度 計画	24 年度 実績	26 年度 見込み
A 盛岡市人口	人	297,924	298,853	298,853	299,220	299,220
B コース数	個所	9	9	9	9	9
C						

(3) 24 年度に実施した主な活動・手順

①コースの開設整備
②市民への広報活動
③コースマップの印刷
④コースの草刈払い
⑤コース標識の修理
⑥ガイドブックの作成

(4) 活動指標（事務事業の活動量を示す指標）

指標項目	単位	22 年度 実績	23 年度 実績	24 年度 計画	24 年度 実績	26 年度 目標値
A コースの巡視活動と草刈払い作業日数	日	12	12	12	12	12
B コース標識の修理個所数	箇所	5	5	5	8	5
C コースマップ及びガイドブックの印刷数	部	500	500	500	1,000	500

(5) 意図（対象をどのように変えるのか）

近郊の里山等に生育生息する植物や野鳥等との自然のふれあいを通じて自然環境の大切さを対象に理解してもらうことによって，対象の環境保全及び自然愛護意識を高める。

(6) 成果指標（意図の達成度を示す指標）

指標項目	性格	単位	22 年度 実績	23 年度 実績	24 年度 計画	24 年度 実績	26 年度 目標値
A コースマップ及びガイドブックを持帰った数量(概算)	■上げる □下げる □維持	部	500	500	500	500	500
B	□上げる □下げる □維持						
C	□上げる □下げる □維持						

(7) 事業費

項目	財源内訳	単位	22 年度実績	23 年度実績	24 年度計画	24 年度実績
事業費	①国	千円	0	0	0	0
	②県	千円	0	0	0	0
	③地方債	千円	0	0	0	0
	④一般財源	千円	421	449	3,600	3,343
	⑤その他(　　)	千円	0	0	0	0
	A 小計 ①～⑤	千円	421	449	3,600	3,343
人件費	⑥延べ業務時間数	時間	880	880	880	880
	B 職員人件費 ⑥×4,000 円	千円	3,520	3,520	3,520	3,520
計	トータルコスト A＋B	千円	3,941	3,969	7,120	6,863
備考						

3 事務事業の評価（See）

(1) 必要性評価（評価区分が「内部管理」の事務事業は記入不要）

① 施策体系との整合性

結びついている。

理由：身近にある自然の中を散策することにより，自然愛護意識の向上につながっている。

② 市の関与の妥当性

市道や林道等，市民が普段利用している道を活用していること，また，自然環境の保全は市民の理解や協力を得ながら行う必要があることから，行政が行うべきである。

③ 対象の妥当性

身近な自然と触れ合える散策路の整備は市民を対象として実施すべきであるため，現状で妥当である。

④ 廃止・休止の影響

市民が自然と親しむ機会があることは貴重であり，またニーズもあることから，事業の廃止・休止はできない。

(2) 有効性評価（成果の向上余地）

周知方法の改善と，新規コースの設定により，市民が自然と親しむ機会を拡大することで成果の向上が期待できる。

(3) 公平性評価（評価区分が「内部管理」の事務事業は記入不要）

誰でも自由に利用できるものであるため，受益機会は公平・公正である。

また，コースは主に公衆用道路を活用しているため，利用者に費用負担を求めることはできない。

(4) 効率性評価

事業費については，委託業務を部分的に直営化することにより事業費の削減に努めており，これ以上の削減はできない。

人件費についても，業務時間数は最小限にとどめているため，これ以上の削減はできない。

4　事務事業の改革案（Plan）

(1) 改革改善の方向性

コースマップ，ガイドブックの設置箇所を増やし，市民に提供することで，近郊自然歩道の魅力の発信を強化する。

盛岡市環境部ウェブサイトに特設ページを設け，より充実した情報提供を図る。

玉山地域における新規コースの設定の検討。

(2) 改革改善に向けて想定される問題点及びその克服方法

玉山地域における新規コースの設定の検討については，平成 18 年度から実施している玉山区の自然環境調査事業の成果を活用し，検討する。

5　課長意見

(1) 今後の方向性

■　現状維持（従来どおりで特に改革改善をしない）

□　改革改善を行う（事業の統廃合・連携を含む）

□　終了・廃止・休止

(2) 全体総括・今後の改革改善の内容

自然とのふれあいは市民の関心も大きく，高齢化社会を迎え継続していかなければならない事業である。